

# 心不全による呼吸困難感の緩和目的で使用されたモルヒネがせん妄の発現割合に及ぼす影響の検討に関する研究について

この度、大阪大学大学院医学系研究科薬理学（分子医薬学）講座（兼 薬学研究科医療薬学分野）では表題の研究を行うことになりました。

この研究では大阪大学医学部附属病院の患者さんの電子カルテから情報収集を行う予定です。データの使用について、ご協力いただきますよう何卒お願いいたします。

**（１）研究科題名** 心不全による呼吸困難感の緩和目的で使用されたモルヒネがせん妄の発現割合に及ぼす影響の検討に関する研究

**（２）研究組織** 大阪大学大学院医学系研究科薬理学（分子医薬学）講座（兼 薬学研究科医療薬学分野）

**（３）研究の背景と概要** 日本では心不全患者が急増しており、対応のひとつとして心不全への緩和ケアが求められています。心不全への緩和ケアは悪性腫瘍への緩和ケアを参考に実施されており、その内容や方法についての知識は十分ではありません。

せん妄は、緩和ケアを受けている患者さまによくみられる症状で、患者さま本人だけでなくご家族や介護者にも大きな苦痛をもたらすため、緩和ケアの中でせん妄の管理は重点的に行う必要があります。緩和ケアで利用される治療方法がせん妄に及ぼす影響を把握することは、せん妄の管理を行う上で重要です。

モルヒネは、悪性腫瘍への緩和ケアとともに心不全への緩和ケアにも使用される医薬品で、副作用のひとつにせん妄があり、心不全への緩和ケアで使用した場合にもせん妄の発現に影響を及ぼす可能性が危惧されます。そこで、この研究では、心不全で入院された患者さまの電子カルテ（診療記録）に蓄積されたデータを分析し、心不全による呼吸困難感の改善目的で投与されたモルヒネがせん妄の発現割合に与える影響を明らかにしたいと考えております。

**（４）研究の方法および期間** 2010年1月1日～2021年9月30日に大阪大学医学部附属病院に入院し、心不全の増悪と診断を受けられた方を対象に、診療記録から、病歴、処方された医薬品、副作用等の発生状況、カルテ番号、生年月日、性別 等について調査します。研究期間は研究機関の長の許可日～2026年3月31日を予定しております。研究実施期間は2023年8月14日～2026年3月31日を予定しております。

**（５）情報の開示とその方法** 個人情報とは特定できない状態にして、関連学会や論文発表により研究成果を報告いたします。

**（６）個人情報の取り扱い** 電子カルテから抽出したデータは大阪大学医学系研究科分子薬科学講座に保管し、個人情報がわからないようにした状態で、大阪大学大学院薬学研究科医療薬学分野教授室の鍵のかかる引き出しに保管いたします。

**（７）連絡先** 大阪大学大学院医学系研究科薬理学（分子医薬学）講座（兼 薬学研究科医療薬学分野） 池田賢二 Mail: k-ikededa.phs@osaka-u.ac.jp

**（８）研究への参加を拒否する方法** データの使用に同意していただけない場合は研究に使用いたしませんので、上記連絡先までお知らせください。その場合もいっさいの不利益はありません。